

平成 21 年 4 月 2 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008 年度
 課題番号：19520202
 研究課題名（和文）19世紀後半以降のアメリカ合衆国における<イスラーム>表象の文化史的考察
 研究課題名（英文）A Study of “Islam” in the United States in the periods of the late Nineteenth Century and After.
 研究代表者 荒 このみ（ARA KONOMI）東京外国語大学外国語学部・教授
 研究者番号 90119529

研究成果の概要：

アメリカ合衆国の宗教組織「ネイション・オブ・イスラーム」の前史から今日に至る<イスラーム>の文化表象を調査・研究し、その主要人物マルコム X についての考察を深めた。その成果を部分的にはすでに紀要論文に発表しているが、総まとめとしての研究成果は、単行本として発表することになっており、今年中に刊行予定である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：物品、旅費、謝金等

キーワード：英米文学、アフリカン・アメリカン、宗教学、社会学、イスラーム

1. 研究開始当初の背景

今日、アメリカ合衆国では初めてのアフリカン・アメリカンの大統領が誕生し、アメリカの歴史上、重要な転回点を迎えている。オバマ大統領自身はキリスト教徒だが、その家族背景、教育環境を見ると、イスラームとの関わりが深い。このようなアメリカ大統領の出現は、その選出の時点までおそらく大多数のアメリカ市民が予測していないことだった。それほどキリスト教を基盤に建国されたアメリカ合衆国におけるイスラームは、受容しがたい、いわば「異端」の宗教である。それではアメリカ合衆国がイスラームと関わりがなかったかということ、まったくそうではな

い。奴隷制度のもとで、アフリカ大陸から強制連行されてきたアフリカ人の中には、すでにアフリカ大陸で世界の宗教として信者を増やしていたイスラーム教徒が存在した。かれらのうち新世界アメリカに到着してからも、アラーへの信仰を捨てなかった者が多くいる。その他、一九世紀末になると、新移民の流入に伴い、アフリカ・中東からの移民たちがイスラームの信仰を保持し、それを布教する活動を行っている。

イスラームの正統派から見ると、アメリカにおけるイスラーム信仰は異端に映るだろう。まず第一にコーランをアラビア語で読むという絶対命令を守ることは難しくなっ

いる。第二にアメリカ社会におけるジェンダーのありかたは、すでに正統派の男女観を逸脱している。第三に、本研究の主目的である、アメリカ合衆国の宗教団体「ネイション・オブ・イスラム」は、イスラムという名前を関してはいるが、そしてアラーム信仰ではあるが、アメリカの歴史を抜きにして、この組織を探究することはできない。

本研究では、この組織が正統派イスラームであるのか、異端なのか、という論点は取り上げない。アメリカ研究として「ネイション・オブ・イスラム」を対象とするときに、その議論は無意味だからである。アメリカの新しい宗教組織としての存在の意義をとらえなければならない。アメリカ社会になぜこのような組織が誕生したのか。その理由を探ることが一番大きな、そしてもっとも重要な課題である。

アメリカの宗教組織「ネイション・オブ・イスラム」の研究は、日本においてほとんどなされていない。その代表的な伝道師マルコムXに関する文献もきわめて少ない。一九五〇年代・六〇年代を代表する黒人解放運動の指導者として、日本ではマーティン・ルーサー・キング・ジュニアのことはよく知られているが、「ネイション・オブ・イスラム」とマルコムXを抜きにして、アメリカの五〇年代・六〇年代を語ることはできない。このようなアメリカ研究における欠落の部分をも是正する緊急の必要がある。本研究に関連する文献についても、所属する研究機関の図書館では、ほとんど所蔵していない状態であった。

2. 研究の目的

アメリカにおけるキリスト教と対立する宗教組織として、またアメリカ社会におけるアフリカン・アメリカンの歴史的背景、および既成社会との対立構造の中で、特殊な組織である「ネイション・オブ・イスラム」の意味を探ること。その代表的伝道師であったマルコムXの存在理由を、当時の黒人公民権運動の背景で把握しなおすこと。公民権運動とマルコムXが、晩年に主張するようになった人権との間の差異を認識すること。志半ばで暗殺されてしまったマルコムXだが、その精神的遺産がアメリカ社会を構築していることを十分に認識すること。その結果、バランスの取れたアフリカン・アメリカン研究を目指す。

3. 研究の方法

基本的な文献の収集を精力的に行い、アメリカ合衆国における組織本部を訪問し、研究機関におけるアフリカン・アメリカン研究者との情報交換、意見交換を行った。今日、「ネイション・オブ・イスラム」組織および、その代表的伝道師だったマルコムXについて

の研究は、アメリカ合衆国の研究機関において、さらに積み重ねられてきている。特にニューヨークのコロンビア大学の研究者マニング・マラブル教授の研究プロジェクトは壮大で、その一部を調査することが出来たが、これが完成すれば、この領域の研究をきわめて深めることになる。ハーレムにあるマルコムX暗殺現場になったオーデュボン・ボールルームが、ちょうどマルコムXとベティ・シヤボズ記念教育文化センターとして公開され始めたばかりである。コロンビア大学作成の展示セクションを含めて、アフリカン・アメリカン研究教育センターとして、将来、さらに充実した利用方法が可能になると思われるが、このセンターを訪問・調査することができた。

4. 研究成果

紀要論文として部分的に発表した。また講演会の機会を捉えて、「ネイション・オブ・イスラム」およびマルコムXのアメリカ社会における意味について啓蒙活動を行った。アフリカン・アメリカンの大統領誕生とマルコムXの歴史的意味を分析し、新聞に寄稿し、およびテレビのニュース番組で解説した。

これまでマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの顕彰は、ノーベル平和賞受賞を含め、頻繁に行われ、十分にその存在の意味を世間に啓蒙することが実現しているが、一方マルコムXについては、まったく無視されてきたように思われる。メディアによって歪められたマルコム像を撤回し、真実に近い姿でマルコムX像を描き出すことが、私の仕事である。そのためにこれまでほとんど知られていなかったマルコムXの側面、マルコムXの実像に迫ろうと、研究を進めてきたが、四〇〇字詰め原稿用紙にして六〇〇枚の草稿を書いた。現在、これを圧縮して新書版で刊行するべく努力している。新書版によって一般読者に読みやすい形で、アメリカ社会を構築した重要人物マルコムXを知ってもらい、アメリカ理解を深めてもらいたいと考えている。これは、本年度中に刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 「ビラヴィドはなぜ黒いドレスで現れたか」 pp.133-146. 吉田迪子編著『もっと知りたい名作の世界⑧ビラヴィド』ミネルヴァ書房 2007.7.30. pp. 164

2. 「<バーボ>、その攻撃的沈黙の視線」
『メルヴィル後期を読む』所収. 中央大学
人文科学研究所編、中央大学出版部、研究
叢書 43. 2008年2月28日、(45-78) 224
頁.

3. 「認知不能の恐怖 (Fear of Agnosia) —
一人種記号 (レイス・マーカ) とトニ・
モリスンの「レシタティブ」. 特集「表象
のポリテイクス」. 総合文化研究 11号、東
京外国語大学総合文化研究所、2008年3
月21日. (31-60) 159頁.

[学会発表] (計1件)

立命館大学 (京都) 暴力からの人間性の回
復研究会講演会

「トニ・モリスン文学における「暴力」」
2008年12月13日

[図書] (計4件)

1. 『歌姫あるいは闘士 ジョセフィン・ベイ
カー』講談社, 301. 2007. 6. 1.

2. *Ralph Ellison and Individuality* (Tokyo:
Nan'un-Do) 2008. 12. 16. 227.

3. 翻訳『マルコム X 事典』東京、雄松堂、
2008年8月11日、482頁.

(*The Malcolm X Encyclopedia*, Robert L.
Jenkins ed. New York: Greenwood Press,
2002)

4. 編訳『アメリカの黒人演説集』東京、岩
波書店. 2008年11月14日、404頁.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

エッセイ

1. 「バラク・オバマ」を翻訳する

「特集：翻訳を越えて」雑誌「國文學」所
収. 學燈社. 2008年5月10日. 46-53.
総頁193.

2. 「オバマ氏の躍進と指名確定」2008年6
月6日、信濃毎日新聞、京都新聞等、共同

通信配信.

3. 「マルコム X からオバマへの道」2008
年8月19日、公明新聞.

4. 「翻訳ほりだし物・『マルコム X 事典』」
2008年9月4日、東京新聞.

4. 「オバマ大統領誕生の文化的背景」2008
年11月11日、東京新聞.

書評

Susan Courtney. *Hollywood and
Fantasies of Miscegenation: Spectacular
Narratives of Gender and Race,
1903-1967*. (Princeton: Princeton, 2005. 40
4pp.) *African American Review*, Saint
Louis University, Vol. 41, No. 1. pp. 192.
188-190. Spring, 2007.

講演会・研究会

1. 東京外国語大学・読売新聞立川支局共催
全体テーマ「世界の《生》きるかたち」、「理
想郷“世界の村”の建設——あるアフリカ
ン・アメリカンの夢」2008年2月9日.

2. 日本記者クラブ

「アメリカン・ドリーム (アメリカの夢)」
あるいは「アメリカン・ナイトメア (アメ
リカの悪夢)」2008年3月10日.

3. 科研 B イスラーム (代表者青山亨)

東京外国語大学・総合文化研究所

「マルコム X の精神的遺産」2008年6月
23日 (月)

4. 福州大学 (中華人民共和国福建省福州市)
「アメリカ大統領選挙とアフリカン・アメ
リカンの歴史的意味」2008年10月8日

5. アモイ大学 (中華人民共和国福建省アモ
イ市)

“Why Is 2008 a Historic Year for the US:
An American Dream or an American
Nightmare?” 2008年10月10日

6. 研究組織

(1) 研究代表者
荒 このみ

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし